

平成27年度 岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：平成28年1月6日(水) 10:30～11:30
- 2 場所：ピュアリティまきび3階「飛翔」
- 3 出席者：
 - 委員(五十音順、敬称略)
 - 岡本輝代志、沖陽子、勝山博信、河原長美、澁谷俊彦、高橋正徳、千葉喬三、野上祐作、宮林英子/計9名(欠席1名)
 - 事務局(県)
 - 環境文化部次長、環境企画課長、新エネルギー・温暖化対策室長、環境管理課長、環境社会推進課長、自然環境課長、事務局職員

議 題	新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の見直しについて(諮問事項)
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	<p>【議事】新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の見直しについて(諮問事項)</p> <p>(環境企画課長より、資料に基づき説明)</p>
—委員意見— 意見1	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しにあたり、県の立ち位置を定めるため、現在の近隣県の環境施策がどのくらいのレベルまで進んでいるか等の状況把握が必要ではないか。 ・県民との意見交換会を行うとのことだが、メンバーが固定化していないか。より高いレベルの意見を持つ参加者など、新たなパイプを繋いでいくべきではないか。
環境企画課長	<ul style="list-style-type: none"> ・他県の状況については県計画の方針を固めながら並行して把握していきたい。 ・県民との意見交換会については、5月～6月に行う県民等意識調査の結果も踏まえて、項目を設定し、具体的な方法を検討していきたい。 <p>例年実施している「県民の意見を聴く会」においても、環境問題に積極的に取り組んでいるNPO等、新たな参加者にも参加いただき、幅広い意見をいただいている。多様な意見を聴取し、計画に反映していきたい。</p>

<p>意見 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ COP21 も開催されるなど、国においても色々動きがある。そうした国の動きや方向性も踏まえて、見直し方針を策定するべきではないか。 ・ 県計画のスケジュールは、国の諸計画などの改訂スケジュールとリンクしているのか。
<p>環境企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県計画改訂にあたっては、国の動向や各県の動向を踏まえて対応していきたい。
<p>新エネルギー・ 温暖化対策室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば COP21 の関連で言えば、国も今年度末か来春にも、温暖化防止対策の計画を策定するとのことだ。県計画の改訂にあたっては、国の計画や、COP21 開催に先立って提出している国の新たな目標を踏まえて行うことになる。
<p>環境文化部次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3 にあるように、地球温暖化防止行動計画や瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画などは、国の計画等を見据えながら変更するものである。 ・ 個別法に基づく県計画については、国の法律改正を踏まえ、県の関連計画を変更することになる。環境基本計画は、こうした計画も含め、全体の調整をしながら、改訂を行うものである。
<p>意見 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回改訂の際には、パブリックコメントを補完する取組として、岡山大学の学生と県の若手職員との意見交換の場を設けた。今回の見直しでは若い世代の意見はどこで聴く予定か。 可能であれば、パブリックコメントを実施する前に、若い世代と意見交換する機会を設けた方が良いのではないか。 ・ 県民等意識調査の調査対象を 20 歳以上としているが、社会情勢を踏まえ、18 歳以上でも良いのではないか。
<p>環境企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の県民の意見を聴く会でも、若い世代の方に参加いただき意見をいただいている。 ・ 若い世代からの意見聴取についても、県民との意見交換会を実施する中で検討していきたい。その際にご協力もお願いしたい。
<p>意見 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が食べているものが自然環境に繋がっていると意識していない子どもが多い。小・中・高校の各レベルに応じて、教育の中で、自分の命と自然環境が繋がっているという認識を持たせてほしい。
<p>新エネルギー・ 温暖化対策室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育を推進するにあたり、「食」など身近な生活と環境が繋がっているという視点は貴重な。御意見を踏まえ、事業を実施する中で検討していきたい。

意見 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「実践的な環境教育」については長年の課題だ。環境教育についての法律もあるが、国民とそのような法律を結びつけるような仕組みが何かないものかと思う。「実践的な環境教育」と言えば「ごみ拾い」といったレベルに止まりがちで持続しない。 ・環境保全活動を持続するためには、自分と環境とがどういう関係にあるのかを理解する必要がある。人々の中に意識として植え付ける方法が何かないかと思っている。
意見 6	<ul style="list-style-type: none"> ・学会での報告によると、アンケート結果から、幼い頃に自然の中で遊んでいた人々が大人になってから環境保全に係る住民運動を行う傾向が高いとされている。子どもたちに、自然の中で楽しい経験をさせることが、今後、環境を守るための活動に繋がるのではないか。
意見 7	<ul style="list-style-type: none"> ・若者や子どもたちに環境学習を実施する際、何らかの大義を持って行おうとしてもうまくいかない。環境学習を行う大人が、「環境のため」というだけでなく、「自分たちが幼い頃に経験して面白かったから、子どもたちにもさせよう」といった感覚で指導するなど、意識を変えるべきではないかと思う。
新エネルギー・ 温暖化対策室長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の成果を見通すのはなかなか難しい。当室では、環境団体と連携して、小学校などで出前講座を実施している。「温暖化」や「自然保護」などテーマを設けて実施しているが、一つ一つの授業（講座）が単発で終わるのはもったいないとの意見もあり、学年を追って一連のものとして行い、定着が図れないか等の点も考えながら、計画改訂にも反映させてまいりたい。
意見 8	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境が便利になった一方、失うものも大きいと感じている。今の小学生は環境学習で水生生物について学んでいるが、子どもの頃に川で遊んだ大人も一緒に川に入り、生物指標について調べれば、昔との違いがよく分かるのではないか。大人も一緒になって、地域の川の生物指標を定期的につけていけば、感覚的に川の状況の変化について理解できるのではないかと思う。
自然環境課長	<ul style="list-style-type: none"> ・県自然保護センターで環境学習を実施する際も、子どもたちに自ら考えさせるような体験を中心とした取組を進めている。みどりの少年隊の事業も実施しており、幼い頃から自然に触れあう取組について、今後も推進していきたい。
意見 9	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の新潟県環境基本計画では、「PDCA サイクルにより継続的に改善していく」とあり、次の PDCA サイクルを回していく時期にあると思う。 ・経済団体との意見交換会を計画しているとのことだが、環境保全と経済活動とはある意味相反するものであると思う。

	<p>経済活動の側面から、現在の環境施策についてどのように評価しているか。また、今後どのように推進していくのか。</p>
<p>環境企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「県民の意見を聴く会」を実施する際も、事業者の方に参加いただき、意見をいただいている。そういった意見も踏まえながら計画にも反映していきたい。
<p>環境文化部次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済と環境は相反するイメージがあるが、昔のように、環境施策を進めることが経済発展の敵、というのではなく、環境に配慮することが CSR にも資するもので、アピールポイントになるという点は理解していただいている。 例えば、環境アセスメントを実施することは時間がかかるが、そのような配慮をしながら事業を展開することで、地域住民の信頼を得て、共存共栄に繋がる、と理解されるようになってきていると感じる。 ・環境保全のための規制への対応などの企業努力は引き続き求めていくものであるが、それぞれの立場への理解に向けて、昔に比べ、歩み寄っている実感がある。
<p>意見 1 0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全を主体的に考えるためには、ある程度、心のゆとりが必要であると考えられる。現代社会は貧困が問題になっており、そのような人には環境保全を訴えても、なかなか響かない。貧困問題を解決することが環境の保全にも繋がるといった視点もあればいいのではないかと思う。
<p>意見 1 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に「県民の意見を聴く会」等を実施することとしているが、骨子案ができるまでに色々な意見を聞いて骨子案に反映した方が良いのではないかとも思う。 ・経済団体との意見交換会とあるが、主要経済団体にこだわらず、新たに環境保全に取り組んでいるような企業の意見も聞いた方が良いと思う。 社会情勢は変化しているので、環境保全が企業を後押しするような仕組みを作るためにも、人選にあたり、社会の変化を予測できる企業などを検討していただきたい。
<p>環境企画課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体との意見交換会の実施方法等については今後検討するが、人選についても柔軟に考え、的確な意見が反映できるようにしたいと考えている。
<p>意見 1 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂に際して、全国の中での岡山県の立ち位置が示せるような、エッジを効かせた岡山県独自の見直しができればと思う。 ・真庭市では里山資本主義に取り組むなど、各市町村が先進的な環境保全の取組を行っている。県として対市町村との立ち位置はどうするかを検討という視点も留意しておくべきである。

<p>意見 1 3</p> <p>新エネルギー・ 温暖化対策室長</p>	<p>・ 10年ほど前に、県は ISO14001 を取得したが、今では、県でも各企業でも取組を聞かなくなった。過去に行ってきた事業への評価と、今の状況を伺いたい。</p> <p>・ 県では、ISO14001 取得の経験を糧に、現在は独自のマネジメントシステムを構築・運用している。企業の環境経営については、必ずしも ISO によらなくても、色々なツールで取り組めるようになってきている。</p> <p>一定規模の企業では、国際取引などの関係上、引き続き ISO に取り組んでいるところもあると認識しているが、国では、中小企業向けに、より簡易な国内版のシステムとして「エコアクション 2.1」を策定しており、県もこれを推進しているところである。</p> <p>今後、温暖化対策が強化される中で、事業者の環境マネジメントも一層求められていくと思うので、そのような視点も県計画や事業に盛り込んでいきたい。</p>
<p>意見 1 4</p>	<p>・ 今後重点プログラムを考えることになると思うが、県の実情を踏まえ、特に集中的に取り組むものがあれば、それを打ち出していくことなどにより、特徴が出てくるのではないか。</p> <p>総花的になると県の環境行政における顔となる取組が分かりにくくなると思うので、検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>